

**沖縄総合事務局 開発建設部 建設コンサルタント業務審査委員会**  
**議事概要**

開催日及び場所		令和7年10月21日(火) 4階事業審査室	
委 員		神谷 大介 (琉球大学 工学部 工学科 教授) 入部 綱清 (琉球大学 工学部 工学科 准教授) 福田 朝生 (琉球大学 工学部 工学科 准教授)	
対象案件		総件数 1 件	(備考)
建	一般競争入札(総合評価落札方式)	0 件	
設	公募型プロポーザル方式	0 件	
コン	簡易公募型プロポーザル方式	0 件	
サ	簡易公募型に準じたプロポーザル方式	0 件	
ルタ	標準プロポーザル方式	0 件	
ント	公募型総合評価落札方式	0 件	
業	簡易公募型総合評価落札方式	0 件	
務	簡易公募型に準じた総合評価落札方式	1 件	
意 見 ・ 質 問		回 答	
委員からの意見・質問、それに対する回答等		別紙のとおり	別紙のとおり
委員による審議結果の内容		上記について、発注方式、評価基準、評価結果等の説明を行い、原案通り了承された。	

意 見 ・ 質 問	回 答
<p>○事案の審議について</p> <p>1 令和7・8年度管内路面下空洞調査業務 (簡易公募型に準じた総合評価落札方式)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 空洞の深さに対する空洞探査車の仕様はあるのか。</li> <li>○ 発注方式の選定フローで評価テーマが1つであるが、価格点:技術点の割合を1:3としている理由はなにか。</li> <li>○ 近接する空洞については、どのように評価するのか。</li> <li>○ 空洞探査で連続している空洞はどこまで確認できるのか。</li> <li>○ 評価テーマに関する技術提案の「発見技術」は、今の評価方法では相対評価のため1者応募だと意味を持たない。今後は1者応募でも意味をなすような評価方法や複数者が参加しやすいように他地整の「発見技術」を評価に用いることができないか検討する必要があるのでは。</li> <li>○</li> <li>○</li> <li>○</li> <li>○</li> <li>○</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1. 5m以上の深さを確認できる探査車両を準備するよう仕様に規定している。</li> <li>・ ガイドラインの発注方式事例では、知識、構想力・応用力として中央に位置しているが、本業務は入札参加者がコンペ実施区間で探査車両による空洞調査をしたうえで、空洞の発見技術との中率を用いて総合的に評価する難易度の高い業務のため割合は1:3を使用した。</li> <li>・ 2つの空洞の距離が1. 5m以下の場合は同一空洞としている。入札説明書の別添資料にて近接する空洞についての考え方を示している。</li> <li>・ 空洞の厚さ、縦横の広がりはある程度わかるが、実際には開削してみないとわからない。</li> <li>・ 調査区間の路面下(地質)状況を踏まえた実測評価方式(コンペ方式)での発注であることから、他地整のコンペ評価結果を沖縄の評価に用いることができるかは本省とも調整したい。</li> <li>・</li> <li>・</li> <li>・</li> <li>・</li> </ul>